

綱掛石磐座 (綱掛石神社、阿仁神社)

～花が咲いているように美しい祭祀遺跡～

目次

1. おすすめポイント
2. 説明
3. 現地写真
4. 「鳥の目」で
5. 綱掛石神社
6. 阿仁神社
7. アクセス

資料
番号

K23

初版：2026.1.1



1. おすすめポイント

★美しく、尊い磐座！ 摩崖仏が2つも！

「特別な地」として篤い信仰を受けてきたことが伺われます。

★地元以外の有志の方々も保全に参加されています

尊い活動のおかげで見学できます。感謝！！

2. 説明

岡山県神社庁HPによれば・・・

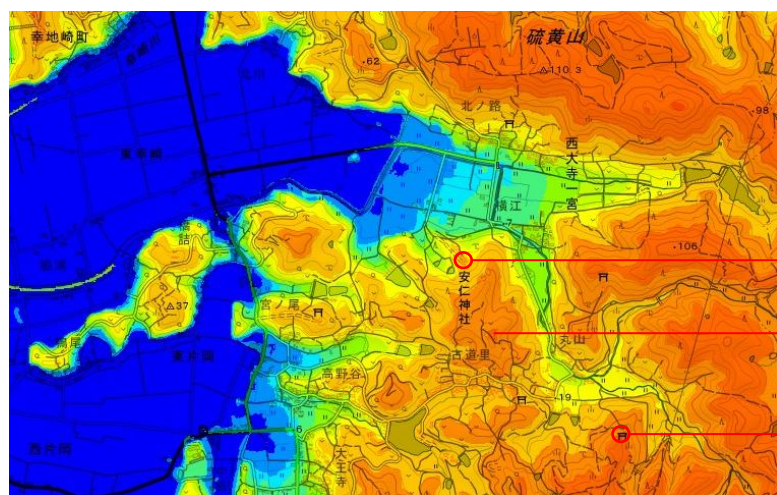
阿仁神社の社地は宮城山（みやしろやま）、別名鶴山といい昔は山の麓まで海であり、入江の奥の良港だった。後方の山には**磐座**や**列石**があり、古代の祭祀跡と見られるところに、**神武東征の船の「ともづな」を掛けたといわれる「綱掛石神社」**がある・・・とのこと。

下図（2-1）のように海が迫っていたことは十分に頷けます。ただ、船の「ともづな」を掛けるには無理がある位置ですので、磐座立石の形状と神武東征を結び付けた説話のようです。

それにしても磐座は他に例を見ない美しさです。正に「花が咲いている」よう（図3-1）。先が尖っている立石がこれほど揃っている磐座は吉備の中でも珍しいです。2つの立石には摩崖仏が彫られており「ただならぬ」尊い地と見られていたことが伺えます。

阿仁神社周辺からは**銅鐸**や**石器**など弥生時代の人々の活動を伺わせる遺物も出土しており、往古から篤い信仰を集めてきた特別な地と思われます。

そのような特別な地でも地元の方々の高齢化などにより保全が難しくなっているなか、有志の方々により綱掛石神社参道や磐座周辺の保全活動がなされているようです。そのような尊い尽力のおかげで見学できる訳で大変有難いことです。



弥生時代の推定概略海岸線
<正確ではありません>（コラム参照）

※地理院地図

自分で作る色別標高図表示

阿仁神社

宮城山（みやしろやま）別名 鶴山

綱掛石磐座（綱掛石神社）



3-1

西側から磐座全景を見る

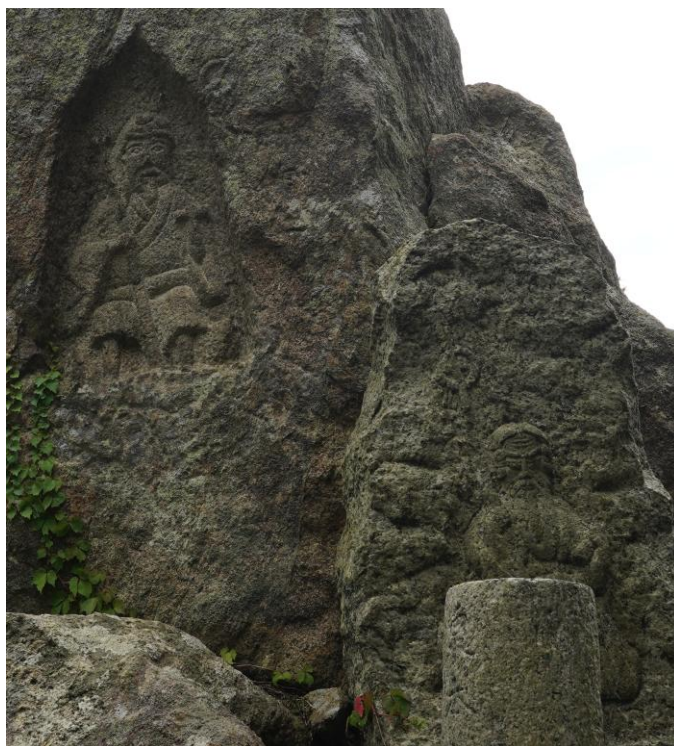
花が咲いているよう！



3-2



3-3



3-4

3-3の中央拡大



不動明王御堂

3-5



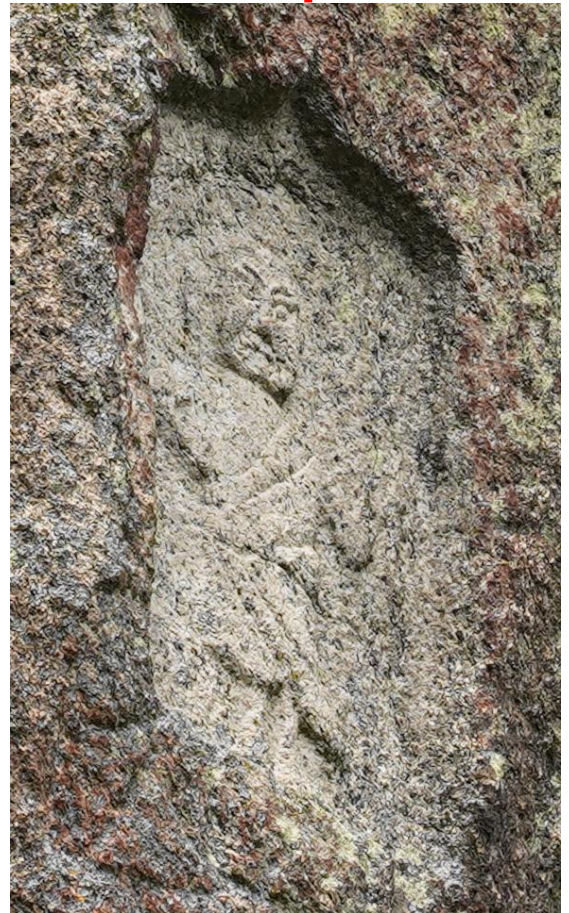
3-6



3-7

御堂の中から不動明王を拝する形になっています。
巨大な立石は台石の上に「置かれている」ように見えます

▶ 巨大な立石に彫られた不動明王

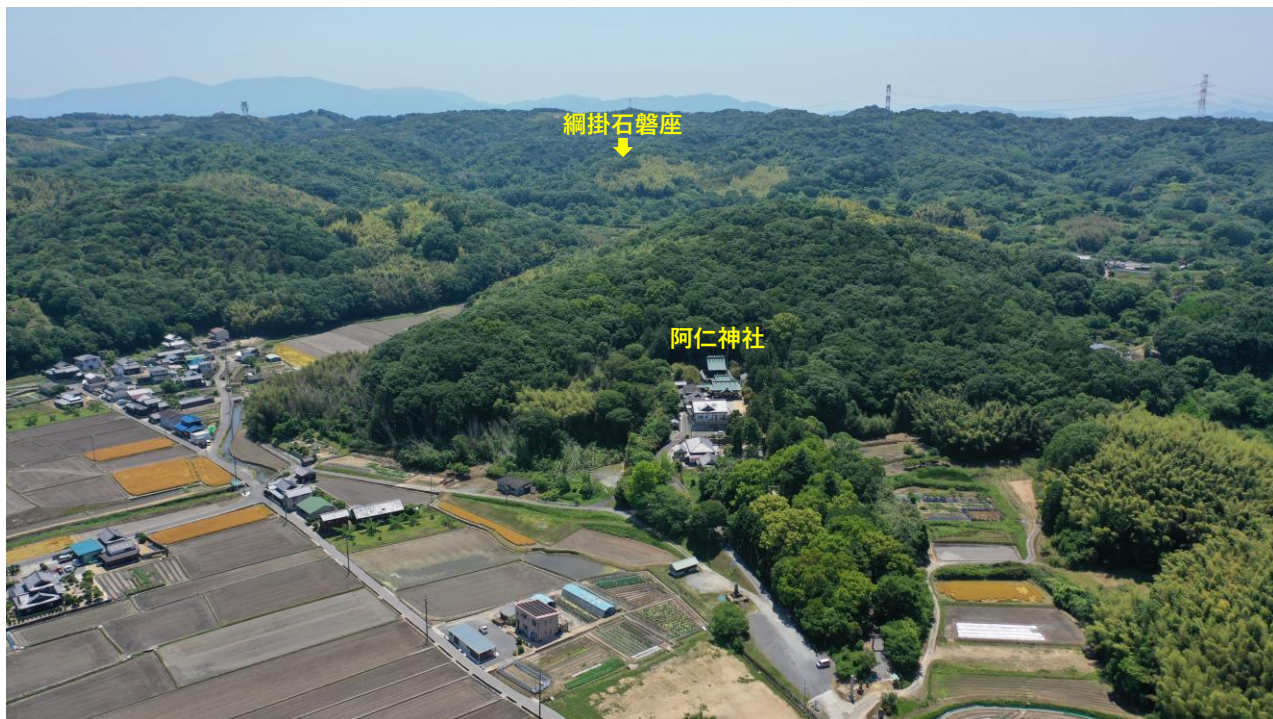


3-8

4. 「鳥の目」で

特記なきものは
2023.7.15

2021.5.23



4-1



4-2

4-4

綱掛石神社

不動明王御堂

先細立石 (3-1)

先細立石 (3-2~4)

北面に彫刻

先細立石 (3-5,3-8)

南面に彫刻

綱掛石神社

社殿背面
の壁状岩
(5-3~5)

先細石

4-3 主な石配置



4-5 不動明王御堂

東側上空から磐座全景を見る



4-6 不動明王御堂

南東側上空から磐座全景を見る



有志の方々により雨水による参道浸食を防ぐための対策が施されています。草刈りも。有難いことです。

5-1

社殿は拝殿のみ

屋根の高さよりやや高い位置の背後ステージに磐座があります。磐座を御神体とする古式神社の典型様式です（図4-2～4-4参照）。



5-2

阿仁神社の宮司さんが奉斎に来られています。

同じ岩です
（図4-3参照）



5-4



磐座のステージから見る

社殿の屋根が見えている

5-3 社殿背後の壁状の岩群

5-5

6. 阿仁神社



6-1

以下枠内、岡山県神社庁HPより引用

「続日本後紀」の承和8年(841)2月8日の条に『安仁神預名神焉(あにのかみみょうじんにあづかる)』とあるのが初見で、「延喜式神名帳」に備前国名神大社とある。

古くは「**兄**神社」又は「久方宮(ひさかたのみや)」と称したとも伝えられている。

御祭神は五瀬命(神武天皇の長**兄**)・稲氷命(同 次**兄**)・御毛沼命(同 三**兄**)。社地は宮城山(みやしろやま)、別名鶴山といい、元宮は標高80メートル位の頂上にあった。

その後、備前藩主池田家の祈願所として現在の地に鎮座した。明治4年国幣中社に列せられ勅使の御参向があった。大正15年皇太子殿下が行啓され、祈年祭・新嘗祭・例大祭には幣帛供進使の参向などがあり、戦前(大東亜戦争まで)は荘厳で隆盛な神域であった。

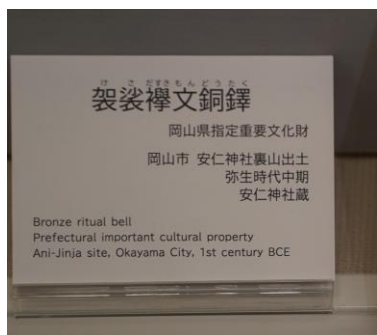
阿仁神社HPによると旧備前一宮とのこと

当神社周辺からは弥生時代の遺物も出土しています



6-2

宮司さんによると、かつて社殿裏の山の斜面は階段状になっていてサカキが植えられていた。明治時代、大雨で斜面が崩れたとき土砂の中から銅鐸が見つかったとのこと



6-3

明治26(1893)年、岡山市西大寺の安仁神社の裏山で発見された銅鐸。本体の文様が僧侶の着る袈裟の襷に似ていることから、袈裟襷文銅鐸と呼ばれる。側面の鱗に鋸歯文、鈕(つり手)に連続渦文を飾る。

本体を铸造した後、銅がうまくはいらなかった部分に鋳掛け(銅を表面からつけ足す)して仕上げた痕跡があり、弥生時代の铸造技術を研究する上で貴重な資料である。

近くからは穂摘み用石包丁などの弥生時代石器も出土しています



6-4

弥生時代の石器

岡山市 安仁神社付近出土
弥生時代
安仁神社蔵

Stone tools
Aji-Jinja site
Okayama City
Yayoi period

稲作とともに石包丁など新たな石器が大陸から伝えられ、弥生時代には石器の種類が豊富になる。

木を切る石斧、木を加工する片刃石斧といった磨製石器と、石鏃などの打製石器がある。稲穂を摘み取る石包丁は、磨製と打製の両方があり、岡山県南部では打製、北部では磨製が主に用いられた。打製石器には、縄文時代と同様にサヌカイトが用いられた。

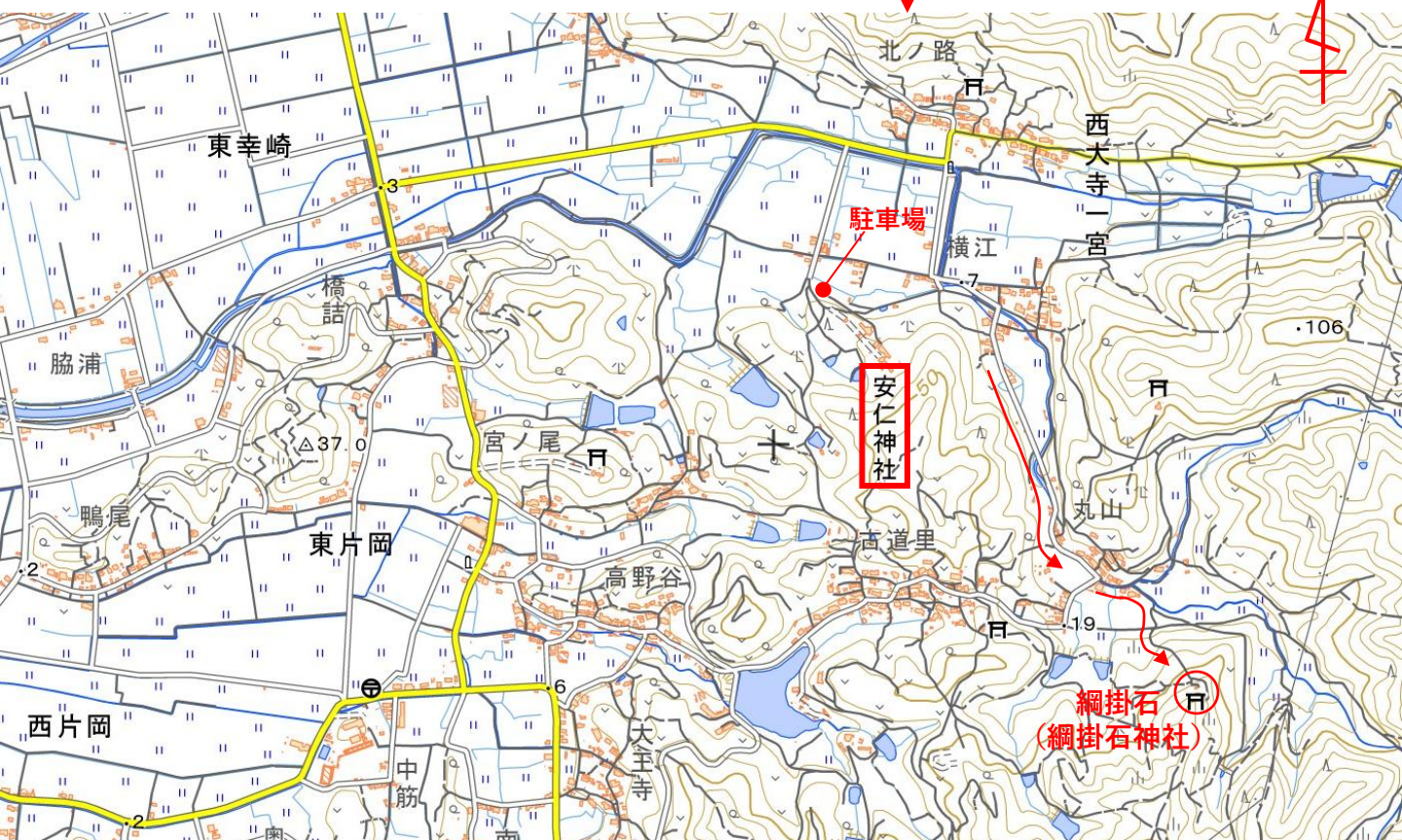
6-5

※銅鐸、石器ともに岡山県立博物館展示
2025.4.16撮影

7. アクセス



7-1 Google Mapに赤黄で追記



7-2 地理院地図に赤で追記

阿仁神社駐車場から徒歩で20分弱です

参考資料

- 1) 岡山県神社庁 HP 「阿仁神社」
- 2) 阿仁神社 HP